

故郷の町並み、懐かしきかな

故郷の H 君の FB (Face book) に、母校の体育祭のデコ (デコレーション) の写真が掲載されていたので、「懐かしいですね」とコメントを書き込んだ。FB を始めたのも、この H 君からの誘いがあったからだった。

H 君から早速 FB に、次のようなコメント書き込みがあった。

【 阿部君、もう 51 年経ちますね。10 メートルにもなるデコレーション。一カ月も前から夜通しかけてクラスごとに作った思い出。

今日では危険と云うことでしょうか、たかだか 3 メートルほどの飾りのよう。 】

確かに我々の時は、クラス毎に広い体育館に持ち込んでデコ作成を放課後や夜遅くまで準備した。

校庭にデコを立てるには、当時は仮設足場組み立てパイプはなく、各農家から稲干し用の丸太を何本も借りに行った。

10 m 程のデコを立てるのは、体育祭の前夜、全校生が協力・分担し合って、校庭に自転車を並べてペダルを一斉に踏んで自転車の外灯をつけてサーチライト代わりにし、協力し合ってクラス毎のデコを立てた。

確かにあの時と比べれば今のはチャチで、これじゃあクラスや全校生の協調性や連帯感は育まれないだろうなあ～、(;_;)

振り返れば何とものどかで大らかな高校生活だったので、卒業記念誌に自分は、「我が高校生活に悔いなし！」と書いた。

また、当 HP でもしばしば「我が精神年齢は、高卒でストップ」と公言している。

それだけに、13 年前に母校の創立記念日の記念講演・演者として招かれ、約 800 名の在校生後輩に、「福祉とアイデンティティ」と題して話した (HP「雑学 BN」の講義等関係 (I)、2000.05.09.「高校創立記念日・記念講演録」: 参照) が、話の最後に、素晴らしい高校生活を過ごさせていただいた母校への感謝を付け加えた。

H 君の別の日の FB に、故郷の町並みの写真が掲載され、「淡路富士」と呼ばれる先山 (海拔 448 m) もきれいに右上に映っているが、我が生家は、右手で切れて写っていないで、残念！

H 君は恐らくこの町並みの写真は、海岸近くの三熊山 (海拔 125 m) の山頂から撮ったと思うが、高校卒業式の後、みんなを誘ってそれぞれが卒業証書入りの筒を持ったまま、歌を唄いつつ高校時代を惜しみながら登ったのがこの山。

H 君の写真のお陰で、愛おしい高校時代の思い出に浸る一時を与您いただき、「持つべきものは、良き友かな」。